

性役割について (I) - 父親からみた「男らしさ・女らしさ」 -
 島根大教育 猪野柳子

目的 子どもの性役割の発達には、母親よりも父親の方がより影響を与えていると報告されている。現在の父親の権威は失墜し、養育においても父性欠如の傾向が強いのであるが、こうした父親のもとで育つ子どもたちの性役割取得はどのようになされるのであろうか。このことを明らかにしていく第一歩として、現代の父親の考える「男らしさ」「女らしさ」と、子どもとの間のずれについて調査を実施した。

方法 中学生の男女生徒とその父親を対象に「男らしさ」「女らしさ」についての意識調査と柏木らの性役割期待調査を実施した。

結果 ①父親の考える「男らしさ」とは、「責任感がある」「意志が強い」「決断力がある」「実行力がある」ことであり、「女らしさ」とは「やさしい」「あたたかさがある」「明朗である」ということである。②自分の息子や娘の「男らしさ」「女らしさ」は、大半の父親は普通程度だとみている。が、娘を「女らしい」育つ父親よりも息子を「男らしい」とする父親の方が有意に多くみられる。③父親は娘を「女らしく」育てるよりも息子を「男らしく」育てる。④父親が息子に期待する役割と娘に期待する役割にはちがいがみられる。つまり、息子には「女性リーダーする」「活発な」「指導力のある」「背が高い」とを期待し、娘には「かわいい」「気持ちのこまやかな」「おしゃべりな」「行儀のよい」などを期待している。⑤父親と子ども達との間に差のみられる項目は、息子で「視野の広い」「慎重な」「忍耐強い」「社交性のある」、娘で「かわいい」「忍耐強い」「慎重な」「融通性のある」であり、いずれも父親の方が高い期待を示している。